

イマゾスルフロン・
カフェンストロール・ダイムロン粒剤

農林水産省登録 第20407号
性 状：類白色細粒、水溶性パック入り、1パック50g
毒 性：普通物
危 険 物：—
有効年限：3 年
包 装：(50g × 10 パック) × 10

クラッシュ®EXジャンボ

有効成分：イマゾスルフロン…………… 1.8% カフェンストロール(PRTR・1種)……………4.2%
ダイムロン……………20.0%

補助成分：直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩(PRTR・1種)…3.1%以下



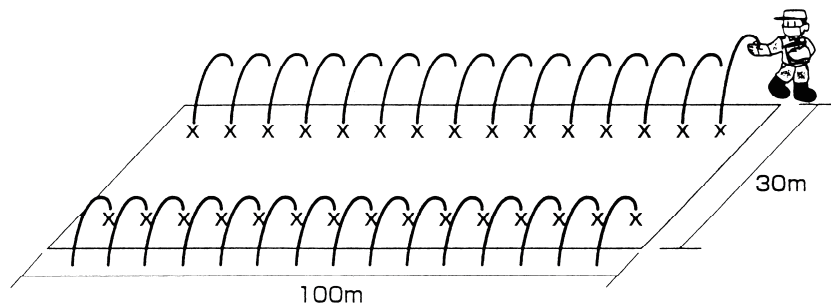
こちらのバーコードをスマートフォン等で読み取るとi-農力サイトに掲載されている本剤の新しい情報をご覧になれます。また、詳しい読み取り方・最新情報については11頁をご覧ください。

〔適用と使用方法〕

作物名	適用雑草名	使用時期*	適用土壌	10アール 当り 使用量	総使用回数*	適用地帯	使用方法
移植 水 稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ (北海道を除く) ヘラオモダカ (北海道、北陸) ヒルムシロ (北陸を除く) セリ アオミドロ・藻類 による表層はく離	移植後 3～15日 (ノビエの 2葉期 まで)	砂壤土～ 埴土	小包装 (パック) 10個 (500g)	本 剤：1回 イマゾスルフロン：2回 カフェンストロール：1回 ダイムロン：3回 (育苗箱散布は1回、 本田では2回)	北海道	水田に小包装 (パック) のまま投げ入れる
		移植後 3～12日 (ノビエの 2葉期 まで)	壤土～ 埴土			東北	
		移植後 3～10日 (ノビエの 2葉期 まで)	砂壤土～ 埴土			北陸	
						関東以西の 普通期及び 早期栽培地帯	

〔クラッシュ® EX ジャンボの散布方法〕

- 代かき、整地をていねいに行い、田面を均平にする。
- 散布前に湛水深を5 cm程度（深水め）にし、水の出入りをしっかり止める。田面が露出していると、その部分は効果が劣るので注意する。
- 10 a 当たり 10 パックの割合で、間隔をあけて水田内に投げ入れる。
（散布例）30 a（30×100m）の場合、畦畔の長辺から図のように10 a あたりパック10個の割合で、30個投げ込む。（6～7 m間隔で）



- パックは破らずそのまま畦畔から軽く下手投げする。また、ぬれた手でパックを触らない。
- 藻類が発生する前に散布する。（早めに散布）

⚠ 効果・薬害等の注意

- 主要雑草に対する散布適期幅

ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ	2葉期まで 2葉期まで 2葉期まで 発生始期まで	ヒルムシロ セリ アオミドロ 表層はく離	発生期まで 再生前～再生始まで 発生前まで 発生前まで
----------------------------------	-----------------------------------	-------------------------------	--------------------------------------

○本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2葉期までに時期を失しないように使用する。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に使用するよう注意する。

- 藻類または表層はく離の発生しやすい水田では、有効な剤との組み合わせで使用する。
- 田植え前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用することが望ましい。
- 苗の植え付けが均一になるように整地、代かきはていねいに行い、ワラくずなどの浮遊物はできるだけ取り除く。また、未熟有機物を施用した場合は特にていねいに行う。
- 処理に当たっては、水の出入りを止めて5～6 cmの湛水状態に保つ。処理後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないようにし、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じる。
- 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使い切る。
- 本剤は小包装（パック）のまま、10アール当り10個の割合で水田に均等に投げ入れる。
- 藻や浮き草が多発している水田では、拡散が不十分となり効果が劣る可能性があるので使用をさける。
- パックに使用しているフィルムは水溶性なので、濡れた手で作業したり、降雨で破袋することがないように注意する。
- 以下のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさける。特に、処理時または処理後数日以内に異常高温が重なる場合は、初期生育の抑制が顕著になるので注意する。

- 砂質土壌の水田および漏水の大きな水田（減水深が2 cm/日以上）。
- 軟弱な苗を移植した水田。
- 極端な浅植えの水田。
- 梅雨期等、処理後に多量の降雨が予想される場合には、除草効果が低下することがあるので使用をさける。
- いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
- いぐさ栽培予定水田では使用しない。
- 本剤を使用した水田の田面水は、他作物の灌水に用いない。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。



安全使用上の注意

- 濡れた手で触らない。
 - 水溶性フィルム包装が破袋した場合で、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手術を受ける。（刺激性）
 - 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管する。
 - 吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管する。
 - 袋の中身のパックは強く圧するとフィルムが破れるおそれがあるので注意する。
 - 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しない。
 - 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう注意して使用する。
 - 散布後は水管理に注意する。
 - 空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。
- 12 頁記載の注意事項、(1)、(2)、(3)、(4)－E も合わせてお読み下さい。

〔品目特性〕

- イマゾスルフロンに、ノビエに対し高い効果を示すカフェンストロールと、ホタルイなどのカヤツリグサ科雑草に安定した効果を示すダイムロンを混合した初期一発処理除草剤です。
- 水溶性のK C 1（塩化カリウム）を担体に使用した粒状タイプの自己拡散型除草剤を、水溶性フィルムでバックし、省力的な手散布を可能にした投げ込み型のジャンボ剤です。
- 水田に入らず畦畔から手散布できる。
散布器具が不要で、水田に入らず畦畔からパックを手で投げ入れるだけの省力散布ができます。
- 拡散性に優れた製剤である。
自己拡散力に極めて優れた細粒を水溶性フィルムでバックしたジャンボ剤です。そのため、処理後はパックのフィルムが速やかに溶けて中身の細粒がいったん田面に沈み、数分で水面上に浮上、崩壊しながら田面水中を広く拡散し、水田全体に十分な効果を発揮します。
- 広範囲の雑草に対して除草効果が高い。
ノビエをはじめとする水田一年生雑草およびマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ等の多年生雑草に高い効果を示します。また、アオミドロ、表層はく離にも効果が認められます。
- 残効期間が長く、長期間雑草の発生を抑える。
- バックした製剤のため薬剤に直接触れることなく、また、散布時に散布者や周辺への飛散の心配がほとんどない。